

「にじバス」の試行運行を振り返って

小平市内には駅が7駅、周辺地域には2駅あり、駅の数はいくつでも路線の接続が必ずしも良くない、便利でない、などの課題があります。市内のバス運行は、主に青梅街道以南にあり、JR武蔵小金井駅、国分寺駅、立川駅へのバス路線が充実している、という特徴があります。

これらの事情を踏まえ、要望が多かったコミュニティバスの試行運行を平成16年1月から行う中で、地域に合った運行のシステムをつくり、その検証を行い、また導入効果などを具体的に把握するために1地域での試行運行を行ってきました。導入効果があると判断された場合、システムの改善などを行い、運行継続の検討を行うこととしてきました。

フォローアップ調査^(※4)の結果 (平成16年10月調査)

次の結果からも、高齢者、主婦などが出かけやすくなり、移動制約者の公共交通の足が確保されたことが確認できました。

- 利用者の68%の方が女性であり、その中の6%の方が子ども連れである
- 利用者のうち46%程度の方が65歳以上である
- 利用者の44%の方が主婦であり、その中の24%の方が買い物、13%の方が通院である
- 利用者の25%の方が小平駅と一橋学園駅で乗り降りしている

※4 「にじバス」利用者の乗降バス停、目的地、年齢層などを調べるために市が行った調査を、フォローアップ調査といいます。

実施計画での試算と実績との比較

「にじバス」の試行運行前の試算では、利用者を年間23万人(630人/日)と見込んでいました(小平市コミュニティバス運行実施計画調査報告書による)。

これに対して、平成16年度では25万5千人(700人/日)で、見込みより11%増、平成17年度では28万6千人(784人/日)で、24%増の利用があり、当初の計画以上の結果が得られました。

一方、利用者1人当たりの経費は、運賃の100円をはるかに超えた220円となっています(右表のとおり)。

シリーズ

行政コストの公表^①

コミュニティバスに税金3,000万円が使われています

小平市のコミュニティバス「にじバス」は、多くの市民の期待を集めて平成16年1月に試行運行を開始し、3年目を迎えています。

にじバスの1年間の運行経費は、おおむね6,240万円かかっています。一方、収入は、運賃収入が2,390万円、東京都の補助金が750万円です(平成16年度決算)。



	内 容	金 額
費 用	コミュニティバス運行等経費(A) (市職員経費を含む)	6,240万円
収 入	事業収入等 (B)	3,140万円
	運賃等収入(1人1回100円)	2,390万円
	都補助金(平成18年度まで)	750万円
税 金 等	費用(A)－収入(B)	3,100万円

※費用には、バス(3台)の購入費や停留所の整備費などの約6,000万円は含まれていません。

利用者1人当たりで見ると、運賃は100円ですが、経費としては約220円かかりました。

市報 平成18年4月20日号より

運行のねらいと効果

運 行 の ね ら い	効 果
不便な地域に交通サービスを提供する	津田町など一部の地域の交通不便が解消されたと考えられる
高齢者や子育て中の方が気軽に出かけられるようにする	フォローアップ調査結果からも、高齢者、主婦の利用が多く、外出の利便が図られたと考えられる
鉄道駅を東西に連絡する	当初計画されていた鷹の台駅へのアクセスは、道路整備の前提条件が整わなかったため評価できないが、小平駅と一橋学園駅での乗降数がほかのバス停より多いことから、駅への利便性は一部向上したと考えられる
まちづくりとの連携を図る	商店街と連携し、回数乗車券の裏面広告・お得チケット、車内広告により、相互の活性化が図られたと考えられる

以上のような効果が認められたものの、次のような課題があることも明らかになりました

- 新たな路線を検討した結果、「にじバス」の車両では通行できない地域があります
- 「にじバス」のサービス内容は評価されましたが、経費の55%を市が負担することには厳しい声があり、他の地域に運行する際に市民の理解を得ることが困難と考えられます
- 行政が主体で行うコミュニティバスの運行では、地元の足を確保するという市民の意欲が、生まれにくくなります
- 既存の商店街やタクシー事業者などの経営を圧迫する、という意見もありました
- 「あり方懇談会」の中で、「にじバス」の路線および運賃などについて再検討するよう提案が出されました(3面参照)